

すべての  $i = 1, 2, \dots, n$  について,  $X_i \sim N(\mu, \sigma^2)$  と仮定する (正規母集団の仮定)。

このとき, 定理 6.3 (P.94) より,

$$U = \sum_{i=1}^n \left( \frac{X_i - \bar{X}}{\sigma} \right)^2 = \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n-1)$$

ただし,  $S^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$  (標本不偏分散) とする。

1. 自由度  $n-1$  のカイ 2 乗分布の下側確率, 上側確率が  $\alpha/2$  となる点を, それぞれ  $\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)$ ,  $\chi_{\alpha/2}^2(n-1)$  とする。

⇒ 図 7.4 (P.118)

2.  $\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)$

⇒ 下側確率が  $\alpha/2$  となる点

⇒ 上側確率が  $1 - \alpha/2$  となる点

$$3. P(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < U < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)) = 1 - \alpha$$

$$P(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)) = 1 - \alpha$$

$$P\left(\frac{(n-1)S^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)} < \sigma^2 < \frac{(n-1)S^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)}\right) = 1 - \alpha$$

4. したがって、信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\sigma^2$  の信頼区間は、推定量  $S^2$  をその推定値  $s^2$  で置き換えて、

$$\left(\frac{(n-1)s^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)}, \frac{(n-1)s^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)}\right)$$

となる。ただし、 $s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$  とする。

例題 7.3 (P.118) : 正規母集団  $N(\mu, \sigma^2)$  から大きさ 20 の標本をとって標本平均と標本不偏分散を計算した。  $s^2 = 17.2$  であった。信頼係数 0.95 の  $\sigma^2$  の信頼区間は？

解答：  $n = 20, \alpha = 0.05$  のとき，

$$P(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)) = 1 - \alpha$$

となるのは，付表 2 (P.246) より，  $\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) = 8.90655, \chi_{\alpha/2}^2(n-1) = 32.8523$  である。

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\sigma^2$  の信頼区間は，

$$\left( \frac{(n-1)s^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)}, \frac{(n-1)s^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)} \right)$$

となる。

よって、信頼係数 **0.95** の  $\sigma^2$  の信頼区間は、

$$\left( \frac{(20-1)17.2}{32.8523}, \frac{(20-1)17.2}{8.90655} \right)$$

となる。

すなわち、**(9.948, 36.690)** となる。

問題 7.5 (P.123)： 正規母集団  $N(\mu, \sigma^2)$  から大きさ **12** の標本をとって標本平均と標本不偏分散を計算した。 $s^2 = 2.8$  であった。信頼係数 **0.90, 0.95** の  $\sigma^2$  の信頼区間は？

解答：  $n = 12$  で、

$$P(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)) = 1 - \alpha$$

となるのは、付表 2 (P.252) より、

$\alpha = 0.10$  のとき、

$$\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) = 4.57481, \chi_{\alpha/2}^2(n-1) = 19.6751,$$

$\alpha = 0.05$  のとき、

$$\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) = 3.81575, \chi_{\alpha/2}^2(n-1) = 21.9200,$$

である。

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\sigma^2$  の信頼区間は、

$$\left( \frac{(n-1)s^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)}, \frac{(n-1)s^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)} \right)$$

となる。

よって、信頼係数 **0.90** の  $\sigma^2$  の信頼区間は、

$$\left( \frac{(12-1)2.8}{19.6751}, \frac{(12-1)2.8}{4.57481} \right)$$

となる。

すなわち、**(1.565, 6.732)** となる。

信頼係数 **0.95** の  $\sigma^2$  の信頼区間は、

$$\left( \frac{(12-1)2.8}{21.9200}, \frac{(12-1)2.8}{3.81575} \right)$$

となる。

すなわち、**(1.405, 8.071)** となる。

問題 7.6 (P.123) : 問題 7.4 (P.123) のデータを使って , 2009 年の外国為替相場の対前年比の分散の信頼係数 0.9, 0.95 の信頼区間は ?

解答 :  $\bar{x} = -0.125, s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = 2.3913^2$  を問題 7.4 より得た。

$n = 12$  で ,

$$P(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)) = 1 - \alpha$$

となるのは , 付表 2 (P.252) より ,

$\alpha = 0.10$  のとき ,

$$\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) = 4.57, \chi_{\alpha/2}^2(n-1) = 19.68 ,$$

$\alpha = 0.05$  のとき ,

$$\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) = 3.82, \chi_{\alpha/2}^2(n-1) = 21.92 ,$$

である。

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\sigma^2$  の信頼区間は ,

$$\left( \frac{(n-1)s^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)}, \frac{(n-1)s^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)} \right)$$

となる。

よって , 信頼係数 **0.90** の  $\sigma^2$  の信頼区間は ,

$$\left( \frac{(12-1)2.3913^2}{19.68}, \frac{(12-1)2.3913^2}{4.57} \right)$$

となる。



すなわち，(3.196, 13.764) となる。

信頼係数 0.95 の  $\sigma^2$  の信頼区間は，

$$\left( \frac{(12-1)2.3913^2}{21.92}, \frac{(12-1)2.3913^2}{3.82} \right)$$

となる。

すなわち，(2.870, 16.466) となる。

### 7.3.4 比率の区間推定 (P.118)

$n$  回の試行 (実験)

$i$  回目の試行で，

成功のとき  $X_i = 1$  , 失敗のとき  $X_i = 0$  とする。

$$R = \sum_{i=1}^n X_i$$

とする。

$n$  回の実験で成功する回数 =  $R$

1 回の試行で成功する確率 =  $p \implies P(X_i = 1) = p$

$X_i$  の平均・分散を求める。

$$\mathbf{E}(X_i) = 1 \times P(X_i = 1) + 0 \times P(X_i = 0) = p$$

$$\mathbf{V}(X_i) = (1 - p)^2 \times P(X_i = 1)$$

$$\begin{aligned} &+(0-p)^2 \times P(X_i = 0) \\ &= p(1-p) \end{aligned}$$

離散型確率変数の平均・分散の求め方は，P.53，54 の (4.12)，(4.14) を参考に。

一方，

比率  $p$  の推定量  $\bar{X}$  を，

$$\bar{X} = \frac{R}{n} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i \quad (= \hat{p})$$

とする。テキストでは， $\bar{X}$  を  $\hat{p}$  としている。

すなわち，

$$\mathbf{E}(X_1) = \mathbf{E}(X_2) = \cdots = \mathbf{E}(X_n) = p$$

$$\mathbf{V}(X_1) = \mathbf{V}(X_2) = \cdots = \mathbf{V}(X_n) = p(1-p)$$

$\bar{X}$  は  $n$  個の確率変数  $X_1, X_2, \dots, X_n$  の標本平均である。

⇒ 中心極限定理 (定理 6.1, P.90) の適用

$\mathbf{E}(\bar{X}) = p, \mathbf{V}(\bar{X}) = \frac{p(1-p)}{n}$  なので,  $n$  が大きいとき,

$$Z = \frac{\bar{X} - \mathbf{E}(\bar{X})}{\sqrt{\mathbf{V}(\bar{X})}} = \frac{\bar{X} - p}{\sqrt{p(1-p)/n}} \sim N(0, 1)$$

として近似できる。

さらに, 分散  $\mathbf{V}(\bar{X}) = \frac{p(1-p)}{n}$  は未知なので,  $p$  を  $\bar{X}$  で置き換える。

よって、 $\bar{X}$  の標本分布は、 $n$  が大きいとき、

$$Z = \frac{\bar{X} - p}{\sqrt{\bar{X}(1 - \bar{X})/n}} \sim N(0, 1)$$

として近似する。

信頼区間：

$\alpha$  を与えたとき、

$$P(|Z| < z_{\alpha/2}) = 1 - \alpha$$

となる  $z_{\alpha/2}$  を付表 1 (P.251) から見つける。

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - p}{\sqrt{\bar{X}(1 - \bar{X})/n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

$$P\left(\bar{X} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{X}(1 - \bar{X})}{n}} < p < \bar{X} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{X}(1 - \bar{X})}{n}}\right) = 1 - \alpha$$

よって、信頼係数  $1 - \alpha$  の  $p$  の信頼区間は、

$\bar{X}$  をその実現値  $\bar{x}$  で置き換えて ,

$$\left( \bar{x} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{x}(1-\bar{x})}{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{x}(1-\bar{x})}{n}} \right)$$

となる。ただし , テキストでは ,

$$\left( \hat{p} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}}, \hat{p} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}} \right)$$

⇒ **P.120**

**例題 7.4 (P.120) :** 表 1.6 (P.10) から , 4271 世帯の調査で , 2008 年度の勤労者世帯の年間収入が 800 万以上の比率の推定値は 0.312 だった。信頼係数 0.95 の母比率の信頼区間は ?

解答： 信頼係数  $1 - \alpha$  の  $p$  の信頼区間は，

$$\left( \hat{p} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1 - \hat{p})}{n}}, \hat{p} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1 - \hat{p})}{n}} \right)$$

となる。

$\alpha$  を与えたとき，

$$P(|Z| < z_{\alpha/2}) = 1 - \alpha$$

となる  $z_{\alpha/2}$  を付表 1 (P.251) から見つける。

$\alpha = 0.05$  のとき，

$$z_{\alpha/2} = 1.96$$



$n = 4271, \hat{p} = 0.312$  なので、信頼係数 **0.95** の  $p$  の信頼区間は、

$$\left(0.312 - 1.96 \sqrt{\frac{0.312(1 - 0.312)}{4271}},\right.$$

$$\left.0.312 + 1.96 \sqrt{\frac{0.312(1 - 0.312)}{4271}}\right)$$

すなわち、**(0.298, 0.326)** となる。

問題 7.7 (P.123)： インスタントラーメンを美味しいとおもうかどうかの調査。100 人中 67 人が美味しいと答えた。美味しいとおもう人の比率の信頼係数 **0.90, 0.95** の信頼区間は？

解答： 信頼係数  $1 - \alpha$  の  $p$  の信頼区間は，

$$\left( \hat{p} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1 - \hat{p})}{n}}, \hat{p} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\hat{p}(1 - \hat{p})}{n}} \right)$$

となる。

$\alpha$  を与えたとき，

$$P(|Z| < z_{\alpha/2}) = 1 - \alpha$$

となる  $z_{\alpha/2}$  を付表 1 (P.251) から見つける。

$\alpha = 0.10$  のとき，

$$z_{\alpha/2} = 1.645$$

$\alpha = 0.05$  のとき ,

$$z_{\alpha/2} = 1.960$$

$n = 100, \hat{p} = 0.67$  なので , 信頼係数 **0.90** の  $p$  の信頼区間は ,

$$0.67 - 1.645 \sqrt{\frac{0.67(1 - 0.67)}{100}},$$

$$0.67 + 1.645 \sqrt{\frac{0.67(1 - 0.67)}{100}}$$

すなわち , **(0.593, 0.747)** となる。

信頼係数 **0.95** の  $p$  の信頼区間は ,

$$0.67 - 1.960 \sqrt{\frac{0.67(1 - 0.67)}{100}},$$

$$0.67 + 1.960 \sqrt{\frac{0.67(1 - 0.67)}{100}}$$

すなわち , (0.578, 0.762) となる。

## 8 仮説検定 (P.127)

統計的推測の方法

### 1. 推定

(a) 点推定 :

・ 母平均  $\mu$  の推定量  $\bar{X}$  , その推定値  $\bar{x}$

- ・母分散  $\sigma^2$  の推定量  $S^2$  , その推定値  $s^2$
- ・母比率  $p$  の推定量  $\bar{X}$  , その推定値  $\bar{x}$

(b) 区間推定 :

- ・母平均  $\mu$  の区間推定

(i) 正規母集団の場合

- 母分散  $\sigma^2$  が既知のとき :

$$\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}} \sim N(0, 1)$$

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\mu$  の信頼区間 :

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}\right)$$

○ 母分散  $\sigma^2$  が未知のとき :

$$\frac{\bar{X} - \mu}{S / \sqrt{n}} \sim t(n-1)$$

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{S / \sqrt{n}}\right| < t_{\alpha/2}(n-1)\right) = 1 - \alpha$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\mu$  の信頼区間 :

$$\left(\bar{x} - t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}, \bar{x} + t_{\alpha/2}(n-1) \frac{s}{\sqrt{n}}\right)$$

(ii) 正規母集団でない場合 (大標本, すなわち,  $n$  が大きいとき)

○ 母分散  $\sigma^2$  が既知のとき :

無作為標本  $X_1, X_2, \dots, X_n$

すべての  $i = 1, 2, \dots, n$  について,  $X_i \sim (\mu, \sigma^2)$  とする。このとき,

$$\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma / \sqrt{n}} \sim N(0, 1)$$

⇒ 中心極限定理 (定理 6.1, P.90)

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma/\sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\mu$  の信頼区間 :

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{\sigma}{\sqrt{n}}\right)$$

○ 母分散  $\sigma^2$  が未知のとき :

$$\frac{\bar{X} - \mu}{\sigma/\sqrt{n}} \sim N(0, 1)$$

について,  $\sigma^2$  を  $S^2$  で置き換えて,

$$\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}} \sim N(0, 1)$$

と近似出来るので,

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\mu$  の信頼区間 :

$$\left( \bar{x} - z_{\alpha/2} \frac{S}{\sqrt{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \frac{S}{\sqrt{n}} \right)$$

・母分散  $\sigma^2$  の区間推定 (正規母集団の仮定) \*\*\* 時間に余裕がなければ省略 \*\*\*

$$\frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n-1)$$

$$\begin{aligned} P\left(\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1) < \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} < \chi_{\alpha/2}^2(n-1)\right) &= 1 - \alpha \end{aligned}$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $\sigma^2$  の信頼区間 :

$$\left( \frac{(n-1)s^2}{\chi_{\alpha/2}^2(n-1)}, \frac{(n-1)s^2}{\chi_{1-\alpha/2}^2(n-1)} \right)$$



・母比率  $p$  の区間推定

$$\frac{\bar{X} - p}{\sqrt{p(1-p)/n}} \sim N(0, 1)$$

分母の  $p$  をその推定量  $\bar{X}$  で置き換えて,

$$\frac{\bar{X} - p}{\sqrt{\bar{X}(1-\bar{X})/n}} \sim N(0, 1)$$

$$P\left(\left|\frac{\bar{X} - p}{\sqrt{\bar{X}(1-\bar{X})/n}}\right| < z_{\alpha/2}\right) = 1 - \alpha$$

信頼係数  $1 - \alpha$  の  $p$  の信頼区間 ( $\bar{X}$  を  $\bar{x}$  で置き換える):

$$\left(\bar{x} - z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{x}(1-\bar{x})}{n}}, \bar{x} + z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\bar{x}(1-\bar{x})}{n}}\right)$$

## 2. 仮説検定 $\implies$ 母数に関する仮説を検定

もっとまとめると，

### 区間推定の種類

#### 1. 母平均 $\mu$ の区間推定

##### (a) 正規母集団の場合

i. 母分散  $\sigma^2$  は既知  $\implies N(0, 1)$

ii. 母分散  $\sigma^2$  は未知  $\implies t(n - 1)$

##### (b) 非正規母集団の場合 (大標本，すなわち， $n$ が大きいとき)

i. 母分散  $\sigma^2$  は既知  $\implies N(0, 1)$

ii. 母分散  $\sigma^2$  は未知  $\implies N(0, 1)$

2. 母分散 ( $\sigma^2$ ) の区間推定 (正規母集団)  $\implies \chi^2(n-1)$

\*\*\* 時間に余裕がなければ省略 \*\*\*

3. 母比率  $p$  の区間推定  $\implies N(0, 1)$

## 8.1 2種類の誤り (P.138)

検定しようとする仮説  $\implies$  帰無仮説  $H_0$

帰無仮説が正しくないときに成り立つ仮説  $\implies$  対立仮説  $H_1$